

としょかんNEWS 第116号



2016年11月14日
湘北短期大学図書館

湘北祭に出店しました！

10月22日(土)・23日(日)、第43回湘北祭が「ALL STAR～一人ひとりが輝ける湘北祭～」をテーマに開催されました。

図書館はアクティブラーニングスペースで『図書館 de 古本まつり』『オリンピック競技キャラクターコンテスト』を開催！さぼーち倶楽部はオープンスペースで恒例のアイロンビーズ工房に加え、手作りブックバンドを販売しました。初挑戦のブックバンドは、さまざまな柄や素材の布で作られた<くるみボタン>で文庫本や手帳を留められるようになっていきます。アイロンビーズ工房は、今年も連日アイロンビーズに熱中する親子連れや卒業生でにぎわいました。2日間、図書館にお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。



● オリンピック競技マスコットキャラクターコンテスト結果発表

湘北短期大学は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結しており、今年は東京2020大会を盛り上げる企画として、「オリンピック競技キャラクターデザインコンテスト」を実施し、期間中に29点の応募がありました。どの作品も力作揃いでしたが、湘北祭期間中に図書館来場者に投票いただいた結果、以下のとおり入賞作品が決定しました！おめでとうございます！



大賞「柔道」16B807 黒澤彩音さん



図書館賞「サッカー」16B809 坂本佳奈美さん

さぼーち賞

「卓球」16B810 佐藤彩さん

「サーフィン」16B828 渡辺沙映さん

「体操」15L119 内田安紀さん

「シンクロナイズトスイミング」15L177 田中円さん

「馬術」15L221 山内美里さん



さぼーち倶楽部、活動報告！

● 図書館総合展ポスターセッションに参加しました

11月8日(火)～10日(木)にパシフィコ横浜で「第18回 図書館総合展」が開催されました。図書館総合展は、図書館に関する最新技術・サービス・トレンド・学術情報を紹介する展示会です。

さぼーち倶楽部では「輝けさぼ部～図書館サポーター活動紹介～」というテーマでポスターセッションに参加しました。ポスターセッションのコーナーでは、図書館の取り組み紹介、研究成果の発表などのポスターが展示され、説明担当者と直接話すことができます。さぼ部メンバーも自分たちが作ったポスターの前に待機し、お越しいただいた方に活動内容を紹介しました。

今回は店頭選書ツアー実施から展示コーナー作成までの一連の活動についてポスターで紹介しました。また、メンバーが作成したオススメ図書のPOPを展示し、来場者が読みたくなった本に投票するコンテストも開催。大賞には山田詠美著『賢者の愛』(中央公論新社, 2015)が選ばれました！投票いただいた皆様、ありがとうございました。



【連載】リレーエッセイ(34) STAP 細胞事件のうらおもて

財務部長 徳田 重典

「STAP 細胞は、ありま～す。」

2014年4月、小保方晴子氏がTV記者会見で熱く語った発言で、当時同じシーンが何回放映されたことだろうか。皆さんの記憶にも、残っていることと思います。

2014年1月にSTAP研究が発表され、小保方氏は一躍時の人となりましたが、研究不正の疑義が発覚し、理化学研究所・ネイチャー・早稲田大学でそれぞれ不正調査が開始され、研究論文に問題ありと公表されました。そのうえで、4月に小保方氏から釈明会見がなされ、冒頭の発言と200回以上の作製に成功した旨、伝えられました。その後、論文盗用・改ざん、再現不可などが判明し、NHKが特集放送。そして論文撤回。小保方氏は理化学研究所を退職することになりました。

あれから2年あまりが経ちましたが、私の中では、この問題が腑に落ちず、真実を知りたいとずっと思っていました。すると2016年1月、小保方氏が真実を自ら語ったとする『あの日』(講談社, 2016)が出版されました。私は、湘北短大の学生の皆さんにも、この社会的問題をうやむやに眠らせるのではなく、一緒に考えてほしいとの思いで、教職員の推薦図書として選んでみました。趣旨をご理解いただいたようで、このたび蔵書に加わり、さっそく読んでみたわけですが、そこに書かれていたのは、マスコミから得ていた印象とは全く

異なる内容でした。マスコミ報道では、小保方氏ひとりが悪者になっていましたが、この本によると、自己防衛のため小保方氏を悪人に仕立て上げた黒幕の存在があったようです。また、NHKや毎日新聞など、人道に反するような取材や、悪人に仕立て上げるような断片的な報道など、小保方氏の人間性を否定し、健康を害するまで追い込む取材活動がなされたと書かれていました。しかしながら、私はこの本だけで小保方氏を擁護しようとは思いません。何故ならこの内容も小保方氏の一時的な見解であるからです。

読む前、私は小保方氏を真理探究する研究者の風上にも置けない犯罪者とさえ印象を持っていました。しかし読後、小保方氏に対し、たいへん同情的になりました。例えやり方やアプローチに誤りがあったにせよ、人類の幸福のための善意の研究行為であるならば、犯罪者・悪人と断定し抹殺するような行動は行き過ぎと感じました。

さて、ここで安易に結論を出していいのでしょうか？私は、学生の皆さんにも、自分の目で見、頭で考え、真実を追求することに挑戦してほしいと思います。私も、事実の裏表を見て、もう一度考えてみたいと思います。ですから、最後に図書館におねがいです。毎日新聞記者の須田桃子氏が書かれた『捏造の科学者 STAP 細胞事件』(文藝春秋, 2015)を買ってください～い。」